令和６年度第３回我孫子市まち・ひと・しごと創生有識者会議
議事概要

開催日時	令和７年２月 27 日（木）午前 10 時 30 分～12 時 10 分
開催場所	我孫子市役所　市長応接室
出席者	委員：林委員長、熊田副委員長、遠藤委員、門脇委員、山内委員
	我孫子市：星野市長、高見澤企画総務部長 事務局（企画政策課）：吉岡課長、河合課長補佐、西田主任、岡村主任
公開／非公開	公開
傍聴人	１人

■議題１　市長との意見交換
・星野市長より挨拶があった。
・林委員長より、Ｂ分科会（評価対象：基本目標３、４）の報告があった。
・熊田副委員長より、Ａ分科会（評価対象：基本目標１、２）の報告があった。
・各委員より挨拶があった。
・「「若い世代に選ばれるまち」を目指すために我孫子市に必要なこと」をテーマに、意見交換を行った。

<発言要旨>
【市長】我孫子市は平成 23 年から人口減少が始まり、新型コロナの影響もあって厳しい状況が続いていたが、ここ２年は人口の微増に転じている。転入者の半分ほどは外国人で、市内や近隣市町の日本語学校などへの留学生の増加によるものと捉えている。市内で不足する介護人材に、積極的に外国人を雇用する動きも見られる。市では AIRA に協力いただきながら多言語への対応に努めているが、英語圏に限らずネパール、中国、ベトナム、フィリピンの方が増え、翻訳機で対応しているところもある。
外国人の人口比率が３％に到達する勢いで増えており、居住地としての我孫子の魅力を感じてもらえている一方、文化、生活習慣などの違いから生じる様々な課題への対応を検討していく必要がある。これから若い世代に我孫子へ引っ越してきてもらえるよう、課題を整理し、皆様からのご意見も頂戴しながら住みやすいまちをつくっていければと考えている。

【市長】市長に就任した当時、手賀沼は全国ワースト１位の汚染状況で、まずはこの汚名を返上しようという、市民との共通認識で Enjoy!手賀沼がスタートした。ワースト１位を脱し、次は市外の人たちにも綺麗な手賀沼を維持していきたいという気持ちになってもらえるよう、親子連れをターゲットにして、手賀沼のそばでゆっくり楽しめるよ

うなイベントに変わってきた。東京から一番近い天然湖沼として、ヨットやトライアスロンなど様々な活用が考えられる。手賀沼マラソンも手賀沼の周りの景色を見ながら走れるコースが好評で、毎年多くのエントリーがある。我孫子の魅力を向上していくためには、手賀沼の自然環境を守りながら、水辺の環境で生活する良さを知ってもらう必要がある。我孫子で生まれる子どもの数は年々減っており、これからは子どもが小中学生のうちに我孫子に引っ越してきて、我孫子が地元だという子どもが増えていくよう、子育て施策に力を入れていきたい。

【市長】共働き世帯が増え、保育のニーズが増えている。幼稚園のニーズは減っているため、幼稚園がこども園に移行することで空き教室を活用し、経営の安定につながることも想定される。また学童のニーズも増えており、市の西側地区で空き教室がない小学校では５、６年生の受入が困難となってしまうが、我孫子市はあびっ子クラブとの一体的な運営を行っているので、保護者の方も安心してもらえる。

【市長】市の東西の人口のバランスは、やはり交通の便の影響が大きいが、路線バス事業者も運転手不足と乗車率の低下により厳しい状況にあり、市が費用の一部を補填して路線を維持している。JR 成田線も乗降客が減少しているので増便は難しく、まずは最低限現状維持をしていただいている。

【委員】東側地区のマンションは手頃な価格だと感じた。

【市長】西側地域に住むとなると倍の価格はするが、都内への通勤時間はそう変わらない。あびこの魅力発信室で、我孫子市は家賃が東京の半分で広さは倍、自然が豊かなまち、ということを PR している。心のゆとりを重視する人に、選ばれるポテンシャルがあるのだろうと感じる。

【委員】時刻表を確認しなくてもすぐに電車がくるような、都心部で育ってきた人を呼び込もうとすると、不便だと感じられるかもしれない。都内で生活している人はやはり交通の便がネックとなる。

【市長】ターゲットは都内だけでなく、茨城や埼玉の東武線沿線などは、生活のスタイルは我孫子と似ているのではないかと感じる。より都内へのアクセスが良い我孫子に引っ越してもらうというのも考えられる。

【委員】どこをターゲットにするかによってプロモーションのやり方がかわってくる。首都圏は内側での取り合いと、外から「もう少し便利」なところに、という人がターゲ

ット。「東京に疲れた」という人を狙うのとでは全然やり方が違う。
３０年間我孫子駅から都内へ通っているが、一番良い点は始発ということ。柏から先ではもう座れない。成田線から乗り換えの場合ワンクッションはあるが、都内まで座って行くのと立って行くのでは大違い。自分は柏市内からバスで我孫子駅へ行くのでワンクッションあるが、成田線も大きく違わないように思う。不便さというのとは違う捉え方で打ち出せると良い。ただ最終バスの時刻が早くなっているのは改善してもらいたい。

【市長】バスは渋滞の影響があるので電車のほうがより確実に着く。柏駅から 15 分程度のところと我孫子駅近くでは住宅価格が同じくらいなので、都内通勤者で我孫子を選ぶ人も多い。

【委員】そうなるとやはり我孫子駅周辺に人が集まることも仕方ないのか。

【市長】以前は国の交付金を活用して、転入者の住宅取得補助金を実施しており、東側地区には加算をしていたが、国からの交付金も減額され、利用者のアンケートを見ると補助金を理由に我孫子を選んだという人は少なかったので、違う方法でメリットを出していくほうがよいと判断した。

【委員】若い世代を呼び込むためには、駅近の住宅、スーパー、コンビニは必要と考える。私の娘が子育てしている世代で、職場は松戸市内で我孫子に住んでいるが、我孫子から出ない理由を聞くと、松戸は家賃が高く駅前に住む場所がない、結局バスで駅まで行くなら我孫子で十分と言っていたので、まさに市長がイメージしているとおりだと感じる。
娘夫婦は釣りをするので、手賀沼でもっと釣りができるようになればと感じる。フィッシングセンターもあるが、我孫子エリアからは少し離れている。ただ公園も多く、休日の過ごし方でいうと我孫子は充実しているので、やはり平日をどのように過ごすかがポイントと考える。娘も以前はネットスーパーを使っていたが、計画的に注文する必要があるので辞めて、ウーバーイーツなどのデリバリーサービスをよく利用している。そういう変化も市として受け入れていく必要がある。

【市長】50 代 60 代の職員で施策を考えるより、若い世代に考えてもらうことが必要と認識しており、若手職員のプロジェクトチームをつくって施策の提案を受け、これまでに実現した施策もいくつかある。

【委員】成田線が 30 分に１本という不便さを「ゆとり」という捉え方をするのが良いのでは。

【市長】移住先として我孫子を選んでいる人たちは、子育てに適した街だと感じてくれている人が多い。

【委員】そういった人をターゲットにしていくのが良いと感じる。子育て世帯は子どものことを考えると色々な視点が生まれてくると思う。

【委員】我が家では親がバスで通っていたのを見て、子どもは「駅の近くがいい」と感じたよう。その人の環境によって感覚も変わると感じる。

【委員】少し都心から離れた地方に住む人で、働く場所が都内や我孫子市内という人がターゲットになりやすいか。

【市長】我孫子で育った子も、大学を出て最初は都内に住んで、都内で働きたいと思う人も多い。彼らが家庭を持ったときに我孫子に戻ってくるという選択肢があれば、その子どもたちは我孫子がふるさとになっていく。

【委員】18 歳頃までに接したまちが自分のふるさとになるという話がある。小中だけでなく、高校まで我孫子に住んでもらうための戦略、たとえば県立高校のレベルアップや私立高校の誘致などの考えはいかがか。

【市長】我孫子は近隣の県立進学校が学区内にあることや、今ある高校も定員割れしているような状況で、新たな高校の誘致というのは難しいと思う。

【委員】働く場所をつくることが一番ではないか。自社でも正社員の募集ももちろんかけてはいるが、パートタイムのほうが応募は多い。近隣に幼稚園など子どもを預ける場所があり、子育てしながら働く人も多い。

【市長】職住接近を求める人はやはり多いと思う。

【委員】やはり働く場所の創出、企業誘致、子育て世帯が働ける場所づくりというのが大切。最終的には納税にもつながる。

【市長】今回柴崎地区の産業用地の件が残念な結果になってしまった。別の候補地で県と協議を続けている。元々商業用地の方向で検討していたが、工業系も含めて検討していく。対象の土地は天王台エリアで消費者にとって便利な場所であり、イコール労働者にも通いやすい場所である。農地指定の解除が必要となる。

【委員】以前から我孫子は農地の指定の問題が大きいと感じる。農地しかないからできない、転用には時間がかかる、となると事業者は柏のほうに目がいってしまう。市としてできることをやっていってほしい。

【市長】我孫子の面積の３分の１は農地で、指定解除しない限り新しい土地は出てこない。農産物直売所跡地の一帯は駐車場や資材置き場になっているが、手賀沼の目の前の好立地であることからも、有効に活用するべきと考えている。活用の提案も２者からあがっているので、あの場所らしい施設にしていきたい。

【委員】農地の規制が緩和されてくると、土地の活用が進み、市の東西の問題の状況も変わってくる。一方これを放っておくと、農家が大幅に減って耕作放棄地が増えていくのではないか。

【委員】企業も一つの事業だけでは不安定なところがあるので、農業に目を向けてみようという社員もいる。そういうときに行政のバックアップがあると良いと思う。

【市長】農家が自分で耕作できなくなったときに、市が仲介することで安心して農地を貸せるというメリットがあると考える。若い世代で会社を辞めて農業を始めるという人もいるので、湖北地区や新木地区の農地を紹介して、最初は市が用意した保管庫も使ってもらえるようにしている。我孫子の農業はなんでもあるからこそ特色がないと言われる。収益を上げるためには特色を出していく必要があるが、我孫子市内で作った珍しい野菜を都内のレストランに卸している農家もいる。
また現在市内では、帝人ソレイユ株式会社が農福連携の取組として、畑を借り、障害者が主体となって野菜や胡蝶蘭を作っている。現在は社員のお子さんで障害のある方が中心となっているそうだが、もっと広がっていけば親と子の両方にとって良い取組になっていくと感じる。

【市長】今後も小中学生の時代を我孫子で過ごし、我孫子が地元だと言ってもらえるような子育て施策を進めていきたい。引き続き協力をお願いする。

■議題２　施策評価指標の見直しについて
　事務局より施策評価指標の見直しについて説明した。委員から質問があった後、見直しの方向性について了承された。

＜発言要旨＞
【委員】新規で設定した指標が結構多いように見えるが、全体として大きく見直すとい

う認識でよろしいか。

【事務局】指標の実績を中心とした評価をしていただく上で、委員の皆様からいただいた意見を尊重し、大きな変更となった。会議の中で委員から、施策に対する満足度が測れると良いとの意見を複数いただいたことから、受益者の満足度が測れる指標は積極的に採用している。

【委員】従来各施策は複数年度に渡って評価をするべきものだという認識であったが、新規の指標については評価期間が短くなるということか。

【事務局】新規の指標は令和４年度の実績から最終的に令和９年度の目標値・実績までお見せする想定。施策評価表としてはその見え方だが、事務局でなるべくこれまでの流れについて事前リサーチをし、会議にて説明できるようにしたい。

■その他事務局連絡事項

・委員の任期が令和７年３月末で満了する。次期委員への就任の意向について、改めて依頼する。

以上